

# 尊厳死 かごしま

## 第 2 2 号

発行 日本尊厳死協会 かごしま  
 事務局 〒892-0822 鹿児島市泉町 1-15  
 「財団法人慈愛会 事務局」内  
 TEL 099-223-1131 FAX 099-223-2444  
 URL <http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html>

## 第20回 公開懇話会

### 「がんと共に生きる」

がんサポートかごしま理事長 三好綾先生 を聴いて

日本尊厳死協会かごしま 理事 吉國久子

今年、9月というのに例年になく残暑厳しい中、第20回懇話会が開催されました。

今回は、ご自身ががん患者さんとして病と闘いながら、患者さんへのサポートを実践されている、三好綾先生に講演していただきました。

はじめに、がんサポートかごしまのサロン（患者さん達の語らいの場）では、特に尊厳死という言葉ではないが、「延命はしたくないよね」「その人らしく最後は終わりたい」等の発言があり、闘病中でありながらも、自分の最期をどのように過ごしたいのか等が話題になるということをお話されました。

講演では、ご自身の体験から、乳房にしこりを見つけた時の状況、検査、診断、告知、手術後の治療、その後と、当時を振り返りながら、聞くものがその情景を思い浮かべることができるぐらいの表現力で話され、心にしみこんでいきました。以下がその内容です。

#### 1. 告知

「残念ながら、悪いものでした。若いからかわいそうですが、おっぱいを全部とることになります」と担当医から告知された時に、「自分のことなのか」とまず疑ったこと、「本当に何も考えられない状況」になったこと、母親の動揺した行動で我に帰り、母親を気遣った。

#### 2. セカンドオピニオン

告知後は乳がんに関する情報を集め、セカンドオピニオンにたどり着いた。乳がんと診断された時は27歳で授乳をしている時、先ず自分の



子供はどうなるの、乳がんではないと否定してほしいという切なる思いが強かった。3つの病院を受診し、最終的に病院を決めたポイントは、医師の「まだ子供さんが小さいよね。心配だよ」と、病気以外の自分の周りのことを心配してくれて、患者というより一人の人間として対応してくれたことだった。

#### 3. 手術後から患者会参加

手術前の気持ちの辛さや右胸全摘術後、抗がん剤治療時の引きこもり状態の落ち込んだ状況から人生が変わったポイントは、同じがん患者さんからの言葉であった。「あなたは、もったいない人生を送っているよね。」と言葉を聞いて、自分の気持ちに変化が起き、「このまま転んだままいたら、もったいない」と考えるようになった。それから、患者会参加などで「終わったと思っていた人生が動き始めたんだ」と思うようになった。

#### 4. 患者会の仲間とお別れ

最後まで「生ききった」人達。仲間が思い出

して、言葉に出す時、その人たちは、心に生き続けることができる。ある大腸がんの患者さんの言葉「私のがんになったのは使命があるからだと思うんです」。またある患者さんは「きついところは見せたくない」と最後の時、患者仲間には会わなかった。人間にはそれぞれの思いや生き方があり、その人らしく「生きること」を、サポートできればと活動している。

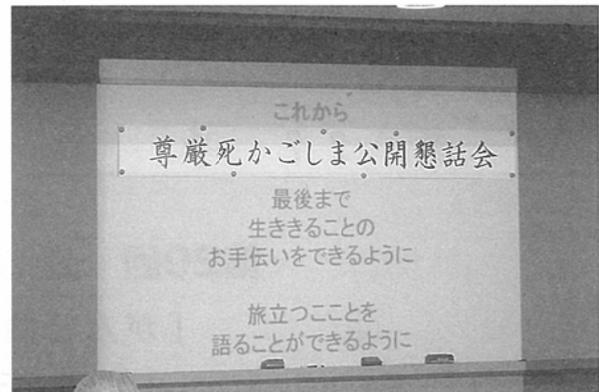
三好先生の話から、がんと診断され、手術、治療と経験する中で、患者仲間との触れ合いで、どんなにか勇気づけられるのか、気持が癒されるのか「患者会の役割の重要性」を改めて感じました。会議や講演など本当にお忙しい三好先生をお迎えしての講演会ができたことに感謝いたします。

講演後は活発な意見交換がありましたのでその一部をご紹介します。

1. 乳がんは自分と関係ないと思っていたが、早期発見が大切で、検診の大切さを感じた。尊厳死協会の講演会でも検診の大切さを啓発してほしい。
2. 自分の身近な人ががんにかかったことがあるが、その時のことを思い出し、もっと違った対応の仕方があったのではと反省した。
3. 医療者の対応が患者さんに大きな影響をもたらすことを改めて感じ、医療者として考えさせられた。

(講演感想アンケートより) アンケート集計20件

1. とても感動しました。がんになって、その時の気持ち、今されていらっしゃる事、いきいきと話をされている姿、とてもすばしかったです。今年親戚の嫁が、やっとできた双子の女の子5歳児を残して、乳がんで旅立たれました。思い出して、彼女もいろいろな思いをされたら。命について考える機会になりました。死ぬ時、よい人生を生きたと感じるような生き方ができれば・・・
2. ありがとうございます。素晴らしい体験談で感動いたしました。「NPOがんサポートかごしま」で誠実にご活躍されているお姿に又一層びっくりして偉い人だなと思うことでした。生きることは、どのような立場に置かれても強



く生きていかなければならないことを痛感しました。言葉がきれいでもわかりやすく話され、聞き取りやすいでした。

3. 講話の内容が具体的でわかりやすかった。この素晴らしいお話を、もう少し大勢の方に聴いてもらえたらと思いながら聞きました。

4. 実体験のお話はとても貴重でした。命の尊さ、いかに生きるかなど、いろいろと深く考えさせられました。ありがとうございました。

協会へのご希望、今後の講演会等 についてのご意見

1. 今回日曜日の開催でしたので出会えました。これまで土曜日開催が多く出席の機会がありませんでした。事務局のご都合もありますでしょうが、今回のように2回に1度は日曜開催にしていきたいものです。お願いいたします。
2. 今回はありがとうございました。次回を楽しみにしています。
3. がん検診の早期発見をあらゆる機会に多くの人にすすめることを尊厳死協会でもとりあげてください。ぜひ、何回も三好先生のお話を多くの人に聴いていただけますよう。
4. 尊厳死と医療の在り方についての講演を希望。
5. 同じ仲間が増えたらいいなと思います。
6. いつも会の係りの方々にはお世話いただきありがたく思っております。今日の講演ももっともっと多くの方に聴いていただけたらと思っています。本当にもったいないです。
7. いつも、素晴らしい企画ありがとうございます。これからも参加させてください。
8. 参加者が少ない、もう少し広報に力を入れた方が良くはないのでしょうか？

## 「生と死」－内山 裕先生の講演を聞いて－

会員 鹿児島市 竹下 トヨ子

尊厳死協会に登録して十一年。今年の学習会の講演。初代の会長、内山裕先生へのお礼状の一端を書かせてもらうことにしました。

先生の人生観の原点は、太平洋戦争で人間魚雷の任に当たり、部下の多くを戦死させてしまい、生き残られた幼友達、橋口大尉が部下のご家族への詫び状を書き終えたあと、終戦三日後の八月十八日午前三時、山口県の特攻基地の愛艇で自決された事に感動され、その親友の人生に恥ずかしくない生き方をと、公衆衛生医師として一生を捧げる覚悟をなさいましたことと拝聴いたしました。

六十余年。離島・僻地・農漁村の保健所長を勤めながら、奄美群島のハブや水不足、戦後の赤ちゃん検診の充実、水俣病患者の救済と、いつも生きることの原点に立ち、弱者への視点に深く、医療の本質は『優しさ』に尽きると熱く訴えて下さいました。

更に、死の現場に多く立ち会う中で、人間の死の受け止め方、よりよい死の在り方に心を配り、尊厳死協会の発足に尽力され、初代の会長の任に当り、その理解と普及に心を配ってくださっています。

お話の最後に人間とは、「からだ」「こころ」「たましい」からなる自然の一部であり、人間が死ぬということは、人間のすべてが消滅することではなく、たましいは無限の世界に還って生き続け、永遠の命となるのだとお話下さいました。あの死生観と壇上のお顔とお声は、私の心の奥深くやきついています。

今年も間もなく終戦の八月十五日、先生の心に生き続けられた橋口大尉の辞世のお歌

君が代のただ君が代のさきくませと

祈り嘆きて生きにしものを

後れても後れても亦郷達に

誓いしことばわれ忘れぬや

二十一歳という若さで、自責の念に自決を遂げられた橋口大尉への鎮魂の思いと、多くの犠牲に依る戦なき世代に生きる私の思いを、おこがましいとは存じますが、拙い歌にさせていただきます、お礼に代えさせていただきます。

ひとひらも落とさぬ花の朝の氣に

発ち征く兵の失せぬ幻

桜とう宴の肴死の決意

強いたる国にただ咲きかすむ

## 夫の看取り －ひとつの死の理想－

読者の声・匿名

夫がこの世を去って三度目のお盆を迎えました。頸椎七番目の痛みを訴えて病院にかかっておりました。ある日、全身まひという想像もつかない状況に陥ってしまいました。「治してもらえるのであれば、すぐ入院させます」という私の問いに、お医者さんの返事は無言でした。

無謀ではありましたが、夫と話し合い、出来る限りの介護のお手伝いを頂き、近くのお医者さんに往診をお願いし、わが家での看病に踏み切りました。

自家発電ができない夫の体は、日に日に弱っていきました。体力の限界を感じた彼は、自分の葬式のこと、私の行く末のこと、気なることをノートに書けと命じ、淡々と話しました。彼の思い、私の思いは別にして、私たちは毎日会話し、移りゆく庭を眺め、食事をし、ほとんどいつもの生活を続けることが出来ました。

最後に見せた夫の生への執着はずさまじいも

のでした。毎日新聞を読んでいましたから、「メガネをくれ」と言います。「テレビをつけてくれ、ニュースを聞く」というのです。死の前の日まで続けました。

その日の朝、少し苦しげに話す彼に私は、来し方の感謝と、これからも二人で静かに暮らしたい旨を話しました。夫は何度も十一時三十分はまだかと聞きました。「十一時半に何かあるの?」、その直後、息が乱れ、ほぼ同時刻に息を引き取ったのです。

夫の死までの行程は、家族に諦めない心、生きる力(死ぬ力)を見せてくれたと思いました。そこにいた娘たちは、そんなときにも生きるんだという力をもらったと言いました。死にゆく夫の大きなメッセージでした。

私に、一つの死の理想を見せてくれたような気がします。

## 会員増加に努めましょう

私たちが目指す「尊厳死法制化」の運動を一層発展させるためには、国会への働きかけとともに、会員の増加が不可欠です。鹿児島県での会員数は、平成8年の設立時に比べれば約2倍になっていますが、本県や九州支部の平成22年8月末の会員数は、表のように全国比では半分程度で、人口1万人に対して6名足らずです。周りの方々にもっと吹聴して、会員増加にさらに努めましょう。

	会員数 (平成22年8月末現在)	各県の人口(×千人) (平成21年10月1日現在)	人口比会員数 (人口1万対)
福岡県	4,382	5,053	8.67
長崎県	669	1,430	4.68
佐賀県	383	852	4.50
大分県	522	1,195	4.37
宮崎県	297	1,132	2.62
熊本県	909	1,814	5.01
鹿児島県	998	1,708	5.84
沖縄県	465	1,382	3.36
九州支部	8,625	14,566	5.92
全 国	124,966	127,510	9.80

### 第21回「公開懇話会」のご案内

と き： 平成22年11月27日（土） 午後2時（開場1時30分）～4時

と ころ： かごしま市民福祉プラザ5階大会議室 鹿児島市山下町15番1号

演 題： 「医療改革における在宅医療の意味 (TEL 099-221-6070)

－キュア（治療）からケア（生活支援）へのパラダイムチェンジ

講 師： 中野 一司 先生（ナカノ在宅クリニック院長） ●入場無料●

紹 介： 鹿児島大学医学部臨床教授、全国在宅療養支援診療所連絡会IT・コミュニケーション局長等を兼ねる先生に、超高齢者社会の到来と医療崩壊とは？ 病院医療と在宅医療との違いは？ 医療・介護の現場で問われているものは？ 家で看取るといふことの意味は？ ……等を伺います。納得できるように、質問も歓迎します。

### 平成23年度総会・公開講演会のご案内

と き： 平成23年4月24日（日） 午後2時（開場1時30分）～4時

と ころ： かごしま市民福祉プラザ5階大会議室 鹿児島市山下町15番1号

演 題： 未 定 (TEL 099-221-6070)

講 師： 大園 清信 先生（医師・鹿児島県議会議員） ●入場無料●

### 編集後記

いつも気節を教えてくれる彼岸花が元気に咲いてくれることを願い乍らさわやかな秋を待っています。次回の懇話会は11月27日中野一司先生です。皆様のご参加をお待ち致します。なお、永らく理事・監事を務めていただいた橋本綾子監事が先般亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

F. K